

『ラテンアメリカ研究年報』執筆要項

2001.6.2 理事会承認

2001.6.3 修正

2007.9.1 修正

I. 全般的留意点

1. 原則としてパソコンで作成し、A4 用紙に横書きで印刷する。原稿は、プリントアウトして送付するとともに、E メールでも提出する。本文・注・参考文献一覧とともに、一ページ当たり、和文は 32 字×25 行、欧文は 60 文字×25 行を標準とし、表紙に 1 ページ当たりの字（語）数と総字（語）数を明記する。使用するワープロ・ソフトは Microsoft 社 Word が望ましいが、原則として他のソフトでも受け付ける。手書きの場合は、A4 版の 400 字詰もしくは 200 字詰原稿用紙を横書きで使用する。

2. 制限字（語）数は、標題・本文・注・参考文献・図表・謝辞等をすべて含めて以下の通りとする。

和文論文	— 24,000 字（400 字詰原稿用紙 60 枚相当）
和文研究ノート	— 16,000 字（400 字詰原稿用紙 40 枚相当）
和文書評（研究動向）論文	— 12,000 字（400 字詰原稿用紙 30 枚相当）
欧文論文	— 10,000 語
欧文研究ノート	— 8,000 語
欧文（研究動向）論文	— 5,000 語

図表は、印刷でき上がり 1 ページを占める場合は 800 字（和文）、もしくは 370 語（欧文）、1/2 ページを占める場合は、400 字（和文）、もしくは 185 語（欧文）として換算する。

提出時に制限字（語）数を著しく超過している原稿は審査の対象としないので注意されたい。

3. 和文の論文、研究ノートについては、投稿時に欧文要約（600 語程度）を、欧文の論文、研究ノートについては、和文要約（1,200 字程度）を提出する。要約は上記の制限字（語）数に含めない。論文、研究ノート以外の原稿には要旨は必要ない。

4. 注は文献リスト方式とする。すなわち、論文末に引用文献リストの一覧を掲載し、本文、注

においては著者名、刊行年、該当ページ番号のみを示す。

5. 審査員に送付する都合上、原稿そのものには氏名・住所等を書き込まない。別紙として表紙を付け、そこに住所・氏名・電話番号・1ページ当たりの字（語）数と総字（語）数を明記する。また、本文・注の中で「拙稿」、「拙著」など執筆者が特定できるような表現は避け、著者名を使う。なお、すべての審査が終了し、掲載が決定した段階で最終稿に「拙稿」、「拙著」などの表現を用いることは差し支えない。

6. 図版のトレース、写真のスライド紙焼き等に著しく費用がかかる場合は、実費の負担を求められることがある。

7. 図表は本文・注とは別に1表、1図ごとに1枚ずつ作成し、本文・注には図表が入る位置を指示する。図表のファイルは本文・注のファイルとは別に作成する。

II. 本文

1. 項目を区分する場合、以下のようにする。

(1) I, II, III,...

(2) 1, 2, 3,...

(3) (1), (2), (3),...

文章中の列挙は、①, ②, ③,...(1), (2), (3),...(a), (b), (c),...(i), (ii), (iii),...などのいずれかを用いる。

2. 外国の国名、地名、人名などは、漢字による表記が慣例になっている場合（東アジア諸国）を除き、原則としてカタカナ書きにする。なお、一般化していない固有の名称（地名、人名、機関名、会社名など）は、最初に限りその原語をカッコ内に付記する。

[例] ペルー農民連合（Confederación de Campesinos del Perú, 略称CCP）

3. 外来語、外国（中国を除く）の度量衡および貨幣の単位はカタカナ書きにする。[例] コーヒー、ガラス、メートル、トン、ドルただし、図表では一般的な単位は記号（km, kg など）を用いる。また、本文中でも%記号は使用してよい。

4. 数字は、慣用句の一部である場合などを除いて、原則としてアラビア数字を用いる。数字が大きい場合、適宜億、万などを用いる。

[例] 23 億 3500 万円

5. 年は西暦を用いる。西暦の表記は原則としてフル表記とする。

6. 年度の表示には斜線を用いる。継続年次の場合には和文では波線（～）またはハイフン（-）を用い、欧文ではハイフン（-）を用いる。

[例] 1970/71 会計年度 1980～85 年または 1980-85 年（和文）、1980-85（欧文）

7. 補足的な叙述にはかっこを用いる。かっこが重なるときはダッシュを使うこともできるが、煩雑になるのでなるべく使用を避ける。

[例] 輸出商品（主要な一次産品—たとえばゴムなど—と工業製品）

Ⅲ. 注

1. 注は通し番号とし、原稿末に本文の後に付ける。通し番号は 1), 2), 3)...の形式とする。

2. 謝辞がある場合は注 1 の直前に、アスタリスク（*）の後に続ける。この場合、本文の表題にもアスタリスク（*）を付ける。ただし謝辞は第一稿には載せず、最終原稿（審査員による審査をパスした後の原稿）にのみ載せることができる。

[例] 注

* [謝辞]

1) [注 1 の内容]

3. 欧文原稿の場合には、最終原稿（審査員による審査をパスした後の原稿）の執筆者名にアスタリスク（*）を付け、注の直前に肩書きと（希望すれば）Eメール・アドレスを欧文で記す。謝辞がある場合には執筆者名につけるアスタリスクは 2 個（**）となる。

[例] 注

* [謝辞]

** [肩書きと Eメール・アドレス]

1) [注 1 の内容]

なお、表題の下に書く執筆者名は名、姓の順とし、姓はすべての文字を大文字で書く。

[例] Taro YAMADA

4. 文献リスト方式のため、著（編）者名と刊行年の表記はできるだけ本文中で行ない、注には回さないこと。

[例]

×・・・とスミスは言っている¹⁾。(本文)

1) Smith (1990: 10-12). (注)

○・・・とスミスは言っている (Smith 1990: 10-12)。 (本文)

IV. 本文および注の文献表記

1. 本文および注で文献に言及するときは、著（編）者姓、刊行年、ページまたは章、図表・注等の番号の順とする。文末の場合、句点より前に置くこと。

[例] 今西 (1974)は・・・

今西(1974:26)は・・・

Klein (1987: chap.6) argues that...

・・・ということがしばしば起こる (山田 1982:14)。

・・・という説もあるが (Villanueva 1973:264, n.19)、ここでは・・・

2. 姓が同一の著者が複数いる場合には、スペイン語の母方の姓、名のイニシャルなどを適宜記して区別する。

[例] (鈴木和夫 1932:24)

(Martínez O. 1983:114)

(E. Oliveira 1994:256)

3. 編者、監修などの場合でも、本文・注では姓の後に「編」、「監修」、「ed.」「comp.」などを付けない。

4. 複数著（編）者の場合は、3人までは全員の名前を記す。4人以上は最初の1名以下は日本語なら「他」、欧文なら「et al.」（イタリックにしない）とする。なお、「&」は使わない。

[例] 今西・鹿野 (1978) は・・・

日本に帰国した (Vilas, Villalobos y Campero 1995:22-31)。

・・・と言う (Brown et al. 1983:66)。

5. 同一著(編)者の複数の文献に言及する場合はセミコロンで区切る。一つの注の中に著(編)者の異なる文献が複数ある場合も同様とする。

[例] (Mariátegui 1924:26; 1930a:55-57)

(Smith 1990; Perez 1995:22-57)

6. 著(編)者名が付いていない刊行物の場合は、発行機関名を表記する。機関名が長い場合、本文、注の中では略称を用いてもよい。ただし文献リストでは正式名称がわかるようにしておくこと。

[例] (IDL 1994) (本文)

IDL (Instituto de Defensa Legal). 1994. *177 casos de injusticia y error judicial en el Perú* (Lima: IDL). (文献リスト)

V. 文献リスト

1. 文献リストは日本語文献と外国語文献に分け、外国語文献は日本語文献の後に配列する。邦訳文献は日本語文献に区分する。原著を明記したい場合には翻訳書の書誌データの後に付記する。日本語文献は著(編)者姓の 50 音順、外国語文献は著(編)者姓のアルファベット順に並べる。姓が冒頭に来ない著(編)者の場合は姓、名の順に倒置する。ただし、スペイン語では父方の姓を先頭に記し、ポルトガル語では最後の姓を先頭に記すなど、各言語の習慣に従う。共著(編)の場合には最初の人名の姓名のみ倒置し、and, y, e, et, und 等を後の著者の前に置く。&は使用しない。

同一著(編)者の文献が複数ある場合には、出版年の古いものを先に、新しいものを後に並べ、刊行年に a, b, c...を付ける。単著・論文は合わせて出版年の順に並べ、編著はその次に出版年順に配列する。なお、雑誌掲載論文、単行書所収論文の場合にはできるだけ掲載ページも入れる。

同じ著(編)者の文献が続くときは 2 度目以下は —— (3 倍ダッシュ) で表記する。

編著である場合には、——編、—— (ed.) などとする。

別の著者や編者が新たに付け加わる場合には、最初の著(編)者名ももう一度出す。

[例 1] 日本語文献服部民夫 . 1994. 「韓国『財閥』の将来」(牧戸孝朗編『岐路に立つ

韓国企業経営』名古屋大学出版会)、105-131 ページ。

[例 2] 欧文文献

Stepan, Alfred. 1986. "Paths toward Redemocratization: Theoretical and Comparative Considerations," in Guillermo O'Donnell, Philippe C. Schmitter and Laurence Whitehead (eds.), *Transitions from Authoritarian Rule: Comparative Perspectives* (Baltimore, MD: The Johns Hopkins University Press), pp.64-84.

—— (ed.). 1989. *Democratizing Brazil: Problems of Transition and Consolidation* (New York: Oxford University Press).

Stepan, Alfred, and Cindy Skach. 1993. "Constitutional Frameworks and Democratic Consolidation: Parliamentary versus Presidentialism," *World Politics*, 46(1), October 1993, pp.1-22.

[例 3] 欧文文献

Drake, Paul W. 1996. *Labor Movements and Dictatorships: The Southern Cone in Comparative Perspective* (Baltimore: Johns Hopkins University Press).

Drake, Paul W., and Ivan Jaksic (eds.). 1991. *The Struggle for Democracy in Chile, 1982-1990* (Lincoln: University of Nebraska Press).

2. 文献リスト作成上の注意

(A) 日本語文献、外国語文献共通の注意

リストを作成する際の原則は、その文献が、(1) 単行書、雑誌論文、会議報告書、学位論文、未公刊物、その他のいずれの形態に属するものかを明らかにし、(2) その文献についての書誌的情報 (出版地、出版社、出版年、巻号ナンバー、ページ等) を明確にすることである。

なお、出版地、出版年が不明の文献については、n.p., s.l., 出版年不明、n.d., s.f.等の断りを入れる。

ページ番号は省略しない。

[例] × pp.146-57

○ pp.146-157

× 40-2 ページ

○ 40-42 ページ

インターネット資料を引用する場合は、アクセスした日を明示する。

前掲書、前掲論文、同上書、同上論文、*ibid.*, *op. cit.*, *loc. cit.*などの言葉は使用しない。

(B) 日本語文献の場合

(1) 単行書

著者、出版年、『書名』シリーズ名、邦訳者名（邦訳書のみ）、出版社、の順で表記する。

出版年は元号を用いず、西暦で表記する。シリーズ名は入れなくてもよい。出版地は省略する。

[例 1] 国本伊代・中川文雄編 . 1997. 『ラテンアメリカ研究への招待』新評論。

[例 2] 星野妙子 . 1998. 『メキシコの企業と工業化』研究双書 491、アジア経済研究所。

[例 3] オゴルマン , E. 1999. 『アメリカは発明された—イメージとしての 1492 年』
青木芳夫訳、日本経済評論社。原著 Edmundo O'Gorman, *The Invention of America: An Inquiry into the Historical Nature of the New World and the Meaning of Its History* (Bloomington: Indiana University Press, 1961).

(2) 単行書所収論文

執筆者、出版年、「論文名」、邦訳者名（邦訳論文のみ）、編者『書名』、シリーズ名（必要がある場合のみ。ただし括弧書きしない）、出版社、掲載ページの順とする。出版地は省略。

[例] 飯島みどり . 2000. 「民主主義のための歴史とは何か—ラテンアメリカにおける歴史認識論争の最前線」（歴史学研究会編『歴史における「修正主義」』シリーズ歴史学の現在 4、青木書店）、267-291 ページ。

(3) 雑誌論文

執筆者、発行年、「論文名」、邦訳者名（邦訳論文のみ）、『雑誌名』、巻号、発行年月、掲載ページの順とする。

[例] 宇佐見耕一. 1993. 「アルゼンチン一次産品輸出経済と外国資本—食肉冷凍加工産業の形成をとおして」（『アジア経済』 34 巻 9 号、9 月）、16-38 ページ。

(4) 新聞

執筆者、発行年、「記事名」、『新聞名』、発行年月日の順とする。巻号は使用しない。

[例] 原田和明 . 2000. 「IT革命で安定成長続く」(『日本経済新聞』 5月5日)。

※なお、無署名の記事や社説の場合や、多くの新聞記事を引用する場合には、(『朝日新聞』 2001年4月30日) などと新聞名、発行年月日だけにしてもよい。

(5) 未公刊物 (内部資料、学位論文等)

執筆者、作成年、「論文名・資料名」、作成元 (提出先) の順とする。

(6) インタビュー、聞き取り調査

注の中で「いつ、どこで、誰が、誰に (匿名の場合を除く)」聞いたのか説明書きを入れ、リストに載せないのを原則とする。

(C) 欧文文献の場合

著者名、著作機関名、書名、論文名、出版地、出版社名は、当該書、当該論文で使用されているものを使う。なお、機関名、紙誌名、出版社名の冒頭の定冠詞は原則として省略する。

論文が掲載されている雑誌の巻号は、vol.と no.のように 2種類ついている場合は、40(3) (vol.40, no.3 の場合)、no.だけならば(3) (no.3)、vol.だけならば 40 (vol.40) のように表記する。ただし、vol., no.でなく、ano, año, issue, part などが使用されている場合には、año 40, núm 3, vol.40, part 3, issue 127 などと表記してもよい。

雑誌の発行月 (または季節) は原則として、その雑誌の使用する言語表記とする。書名は、英語の場合前置詞、冠詞以外のすべての単語を大文字で始め、スペイン語、ポルトガル語、フランス語は書名の先頭の一文字のみ大文字にするなど、各言語の習慣に従う。ただし、コロンの後の副題の先頭文字は主題の先頭と同様に大文字で始める。

(1) 単行書

著者、出版年、書名 (イタリック体にするか下線を引く)、版次、出版地、出版社の順で表記する。複数の出版社・機関の共同出版の場合には出版社をスラッシュでつなぐ。邦訳がある場合は邦訳を付記してもよい。

[例 1] Tuesta Soldevilla, Fernando. 1996. *Los enigmas del poder: Fujimori*

1990-1996(Lima: Fundación Friedrich Ebert).

※この本を本文中で引用する場合には (Tuesta 1996)とし、(Tuesta Soldevilla 1996)とする必要はない。

[例 2] Woodward, Ralph Lee, Jr. 1999. *Central America: A Nation Divided*, 3rd ed. (New York: Oxford University Press).

[例 3] Contreras Q., Carlos. 1990. *Después de la Guerra Fría: Los desafíos a la seguridad de América del Sur*, (Caracas: Editorial Nueva Sociedad/Comisión Sudamericana de Paz).

(2) 単行書所収論文

執筆者、出版年、”論文名,” in (en, em 等)、編者名 (ed.) (または (comp.), (org.),等) , 書名 (イタリック体にするか下線を引く)、(出版地 : 出版社)、掲載ページ。

[例 1] Espinal, Rosario. 1998. "Business and Politics in the Dominican Republic," in Francisco Durand and Eduardo Silva (eds.), *Organized Business, Economic Change, and Democracy in Latin America* (Coral Gables: North-South Center Press, University of Miami), pp.99-121.

[例 2] Sábato, Hilda. 1999. "Introducción," en Hilda Sábato (coord.), *Ciudadanía política y formación de las naciones: Perspectivas históricas de América Latina* (México: El Colegio de México/Fideicomiso Historia de las Américas/Fondo de Cultura Económica), pp.11-29.

(3) 雑誌論文

執筆者、発行年、”論文名,”雑誌名 (イタリック体にするか下線を引く)、出版地 (特に必要がある場合のみ)、巻号、発行月 (または季節)、掲載ページ。

[例 1] Unzueta, Fernando. 2000. "Periódicos y formación nacional: Bolivia en sus primeros años," *Latin American Research Review*, 35(2), pp.35-72.

[例 2] Dirceu, José. 1999. "Colônia ou nação soberana?" *Teoria e Debate* (São Paulo), ano 12, n°42, agosto/setembro/outubro, pp.26-30.

[例 3] Chapman, Audrey, and Patrick Ball. 2001. "The Truth of Truth Commissions: Comparative Lessons from Haiti, South Africa, and Guatemala," *Human Rights Quarterly*, 23(1), February, pp.1-43.

(4) 新聞、ニュース雑誌記事

執筆者、発行年、“記事名、”新聞・雑誌名（イタリック体にするか下線を引く）、出版地（特に必要がある場合のみ）、巻号（新聞の場合は省略）、発行年月日の順とする。

[例] Finnonian, Albert. 1990. "The Iron Curtain Rises," *Wilberton Journal*, February 7.

※なお、無署名記事や社説の場合や、多くの新聞記事を引用する場合には、(New York Times, April 30, 2001)などと新聞名、発行年月日だけにしてもよい。

(5) 学位論文

執筆者、提出年、“論文名、”論文種類、提出先の順とする。

[例] Hansen, Roy Allen. 1968. "Military Culture and Organizational Decline: A Study of the Chilean Army." Ph.D. dissertation, University of California at Los Angeles.

(6) 文書（外交文書、法律条文等）

執筆者（作成機関）、作成年、文書名、所蔵機関を表記する。

[例] United States Educational Foundation for Egypt. 1951. "Annual Program Proposal, 1952-53." Mimeo. (Washington, D.C.: U.S. Department of State).

(7) 配付資料など

[例] Auyero, Javier. 2000. "Political Clientelism in Argentina: An Ethnological Account." Paper presented to LASA Congress, Miami, March 16-18.

(8) 議事録など

機関、国によって表記法は異なるが、おおむねその機関、国において通常採られている表記法を採用する。原則として議会の議事録にはイタリック体にするか下線を引く。

[例] United States Congress. House. Committee on Foreign Affairs. Subcommittee on Asian and Pacific Affairs. 1992. *Refugee Protection and Resettlement Issues Relating to Southeast Asia and Hong Kong, 102 Congress, 1st Session, July 17, 1991* (Washington, D.C.: U.S. Government Printing Office).

※上記の例は、本文中では他の文献と混同しない限り、U.S. Congress (1992)などと省略して表記してよい。

(9) インタビュー、聞き取り調査

注の中で「いつ、どこで、誰が、誰に」聞いたのか説明書きを入れ、リストに載せないのを原則とする。

VI. 図表

1. それぞれ通し番号を付し、表題を付ける。単位、出所を明記する。
2. 図表の表示は表 1、表 2、・・・図 1、図 2、・・・などで統一する。

VII. 校正

1. 校正は論文等執筆者の責任で行なう。ただし、表記の統一に関わる変更や明らかな誤字・脱字の修正等は編集委員会の責任で行なうことがある。
2. 原則として論文等執筆者は再校まで行ない、三校は編集委員会でチェックする。
3. 校正の段階で大幅な加筆修正を施すことはできない。また、校正に当たっては分綴（1つの単語が 2 行にまたがった場合に単語を分けること）の位置が正しいかどうかにも十分にチェックすること。